

【修正・追記箇所一覧】

第4回資料2 における箇所	修正・追記内容
目次	資料編の「8 SDGs と各施策との関係」と「9 計画策定の経緯等」の間に「9 用語集」を追加し、「計画策定の経緯等」を10とする。
第3部 p.109	「2 農業集落排水」及び「3 合併処理浄化槽」中の「 <u>普及促進</u> に努めます」を「 <u>普及</u> に努めます」に修正。
資料編 p.126	<p>「9 計画策定の経緯等」の前に「9 用語集」を追加。（「計画策定の経緯等」は10とする）</p> <p>※用語については、審議会当日に挙げていただいた用語のうち、今後の施策に関わりがあるものを中心に掲載しています。</p>

6	災害廃棄物対策	87
7	不法投棄・ポイ捨て対策	88
8	海岸漂着物対策	88
<b>第7章</b>	<b>その他ごみ処理に関し必要な事項</b>	<b>89</b>
第1節	廃棄物減量等推進審議会及びリサイクル推進員	89
<b>第8章</b>	<b>計画の推進</b>	<b>90</b>
第1節	各主体の役割	90
第2節	計画の周知	92
第3節	計画の進行管理	92
<b>第3部</b>	<b>生活排水処理基本計画</b>	
<b>第1章</b>	<b>生活排水処理の現況及び課題</b>	<b>93</b>
第1節	生活排水処理の現況	93
第2節	第3次計画の数値目標の達成状況	101
第3節	生活排水処理の課題	102
<b>第2章</b>	<b>処理形態別人口及びし尿等排出量の将来推計</b>	<b>104</b>
第1節	処理形態別人口の将来推計	104
第2節	し尿及び浄化槽汚泥等排出量の将来推計	106
<b>第3章</b>	<b>基本方針</b>	<b>107</b>
<b>第4章</b>	<b>数値目標</b>	<b>108</b>
<b>第5章</b>	<b>生活排水対策のための施策</b>	<b>109</b>
第1節	生活排水処理施設の整備	109
第2節	し尿収集・運搬体制の確保	109
<b>資料編</b>		
1	人口推計値の算出方法	110
2	分別区分ごとの1人1日当たりごみ排出量	112
3	資源化量内訳	113
4	類似団体ごみ排出量	114
5	分別区分ごとの1人1日当たりごみ排出量推計値	118
6	ごみ排出量目標値の算出方法	119
7	生活排水推計値及び目標値	123
8	SDGsと各施策との関係	124
9	用語集	126
10	計画策定の経緯等	127

## 第5章 生活排水対策のための施策



### 第1節 生活排水処理施設の整備

国の示す10年概成の時間軸の視点を踏まえた上で、公共下水道、農業集落排水及び合併処理浄化槽の各生活排水処理施設の有する特性、経済性を総合的に勘案した整備手法の実施により早期概成を図ります。

#### 1 公共下水道

- 「将来人口減少率」、「主要企業の立地等」の評価指標において優位性のある市街化区域については、できるだけ多くの市民が早期に公共下水道を享受できるよう整備を進め、国の定める概成期間である令和8年度末までの間、年当たり平均60ヘクタールの整備の実施に努めます。

#### 2 農業集落排水

- 処理施設の老朽化などを考慮し、施設の統廃合を含めた効率的な運営を行います。
- 農業集落排水事業は、公共下水道事業に比べて水洗化率が低い状況にあり、戸別訪問等により一層の普及に努めます。

#### 3 合併処理浄化槽

- 公共下水道の早期整備が困難な区域においては、合併処理浄化槽の普及を促進することとします。
- 合併処理浄化槽の設置補助制度の拡充を行うとともに、戸別訪問等により、制度の普及に努めます。
- 浄化槽の適正な維持管理の指導を徹底します。

### 第2節 し尿収集・運搬体制の確保



- し尿収集・運搬体制について、委託制を含めた最適な収集・運搬体制の検討を行います。

## 9 用語集

用語	フリガナ	審議内容等
エコスラグセンター	エコスラグセンター	鳥取県西部広域行政管理組合が運営していた溶融（不燃物残さ等を高温で溶かし、溶融スラグを生成する）処理施設のこと。平成 28 年 2 月稼働停止。
SDGs	エスディーゼーズ	Sustainable Development Goals の略で、持続可能な開発目標のこと。平成 27 年 9 月の国連サミットにおいて全会一致で採択。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030 年を年限とする 17 の国際目標のこと。
グリーン購入	グリーンコミュニティ	製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入すること。
サプライチェーン	サプライチェーン	製品やサービスが原料の段階から消費者の手に届くまでの全過程のつながりのこと。
ストックマネジメント	ストックマネジメント	廃棄物処理施設に求められる性能水準を保ちつつ長寿命化を図り、ライフサイクルコスト（企画・設計から維持・管理・廃棄に至る過程で必要な経費の合計額）を低減するための技術体系及び管理手法の総称。
トレンド法	トレンドホウ	過去の実績の傾向（トレンド）を基に、数学的手法を用いて将来推計を行う方法のこと。
バイオマスプラスチック	バイオマスプラスチック	原料として植物などの再生可能な有機資源を使用するプラスチック素材のこと。
4R	ヨンアール	リフューズ（断る）・リデュース（ごみを減らす）・リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）のこと。
リフューズ	リフューズ	「断る」 要らないものは断り、ごみを発生させないこと。4R の一つ。
リデュース	リデュース	「ごみを減らす」 ごみにならないように工夫して減らすこと。3R・4R の一つ。
リユース	リユース	「再使用」 繰り返し使う、修理・修繕して使うこと。3R・4R の一つ。
リサイクル	リサイクル	「再生利用」 もう一度資源として使うこと。3R・4R の一つ。
Renewable	リニューアブル	「再生可能な、継続できる」 プラスチック資源循環戦略における意味として、プラスチック製容器包装・製品の原料を再生材や再生可能資源（紙、バイオマスプラスチック等）に切替えること。
ワンウェイプラスチック	ワンウェイプラスチック	一度だけ使用した後に廃棄することが想定されるプラスチック製品のこと。